

# 株式会社 ファーストリテイリング



低炭素社会の実現に向け、温室効果ガス（GHG）排出の低減は世界共通の課題となり、企業の地球温暖化に対する取り組みおよび省エネ対策の内容は、投資家や顧客が持つその企業のブランド価値に対して大きな影響を与えるようになった。このようなカーボンリスクを如何にマネジメントをするかは、企業経営における環境・CSR面での重要なテーマの1つとなっている。

グローバルで飛躍的な成長を続けるファーストリテイリングは、CSRの基本方針として「世界を良い方向に変えていく」を掲げ、環境保全問題の1つとしてカーボンリスクに取り組み始めた。今後のグローバル展開を考えた上でも、それは必要不可欠だったからだ。ここでは、中国などアジア約100拠点にも及ぶ縫製などの生産委託工場での、エネルギーの見える化の取り組みを紹介する。

## 課題

- グローバル全体での環境負荷低減の必要性
- お客様やNGOからの環境への取り組みに関する情報開示の要求
- 各国で異なるGHG法規制に対応するコンプライアンスの強化

## ソリューション

- 「カーボン戦略策定支援サービス」によるカーボンリスクの評価、分析
- 「エネルギー・CO<sub>2</sub>排出量データ管理アウトソーシング」によるアジア生産委託工場約100拠点におけるエネルギーおよびCO<sub>2</sub>排出量の見える化

## エネルギー／カーボンリスク対策のポイント

- グローバル対応
- 生産委託工場との連携
- GHGプロトコルへの対応を考慮したデータ収集、レポート作成支援

## 「エネルギー／カーボンリスク対策支援サービス」

アジアの生産委託工場約100拠点のエネルギー・CO<sub>2</sub>排出量を見える化。  
GHGプロトコル・スコープ3への対応により、他社との差別化を実現。

### 環境は“配慮”から“リスク”へ 各国の規制はさらに強化

企業のグローバル化は、年々その勢いを増している。特に新興市場を中心としたグローバル市場を取り込んでいかなければ、グローバル競争に打ち勝つことは難しい。そのためには、販売拠点、製造拠点を含めたグローバル展開が余儀なくされる。しかし、一度、世界に打って出れば、その企業はグローバルな視点で評価がなされることになる。業績や商品だけではない。環境への取り組みなどCSRも含めた企業姿勢にも、大きな評価が下されるのだ。

その環境への配慮が、グローバル企業にとってはカーボンリスクとして経営に大きな影響を及ぼす。では、具体的にどんなリスクがあるのだろうか。

まず、世界各国それぞれの法規制がある。世界のCO<sub>2</sub>排出量は2007年から2035年の間に、1.4倍に増えると予想されている。そのため、各国では独自に法規制を強化している。特に、今後CO<sub>2</sub>の排出量が大きく伸びるといわれている中国を中心としたアジアの新興国がそうだ。これら新興国は世界の工場としてグローバル企業の生産拠点でもある。多くのグローバル企業は新興国にサプライチェーンを持つ。それらの工場のコンプライアンスの在り方も問われてくるのだ。

### GHGプロトコル・スコープ3への対応 広がるカーボンリスク

特に海外投資家はこれらの情報開示を強く要求し、評価の対象とする。そして、具体的な情報開示データがGHG（温室効果ガス）プロトコルに準じて算定した、GHG排出量となる。GHGプロト

コルとは、企業のGHG排出量を算定・報告するための国際的なガイドラインである。

これまで、GHGプロトコルは、スコープ1（企業活動からの直接的GHG排出）、スコープ2（企業活動での電力、蒸気等のエネルギー使用による間接的GHG排出）の2つで、企業は自社の直接・間接排出に気を配ればよかった。しかし2011年10月、新たにスコープ3が正式に公表された。スコープ3は、自社以外のサプライチェーン全体での排出量を対象にする。

ABeam社会基盤・サービス統括事業部エネルギー担当シニアマネージャーの山本英夫は「このスコープ3の公表によって、グローバル企業にとっては、ますますカーボンリスクが高まったといえるでしょう。新興国といっても、各国法規制は違いますし、工場の規模によっても環境対策への意識に温度差があります。それらのデータを効率よく収集しなければなりません」と、対応の難しさを語る。

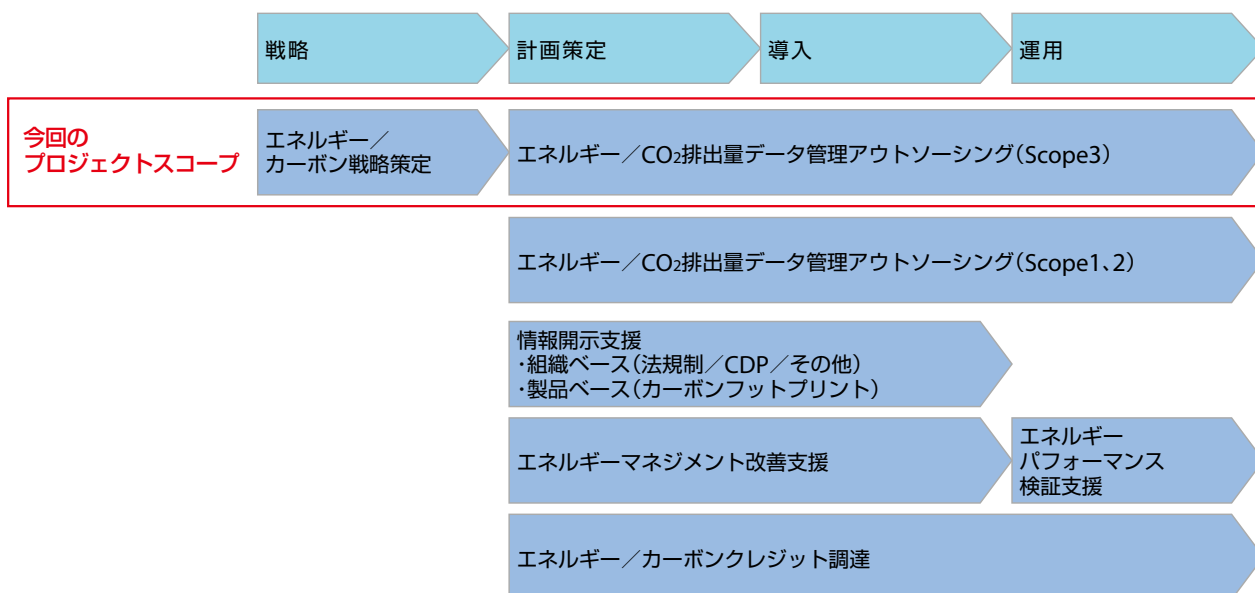
さらにスコープ3とは別に、カーボンフットプリントも浸透してきている。カーボンフットプリントとは、商品ごとに原材料から生産、輸送、使用、そして廃棄までのCO<sub>2</sub>を算出し表記するものだ。これには一般消費者が商品を選ぶ際にCO<sub>2</sub>の排出量を考慮できるように、という意図もある。

このように、投資家や一般消費者に向け、CO<sub>2</sub>排出量を具体的に情報開示することが、グローバル企業のCSRとして必要不可欠となってきているのだ。

### グローバル戦略に カーボンリスク対策は必至

ベーシックカジュアルのトップブランドとして『ユニクロ』の

#### ABeamが提供するグローバル企業向けエネルギー・カーボンリスク対策支援サービス



## 株式会社ファーストリテイリング



株式会社  
ファーストリテイリング  
グループ執行役員  
CSR担当  
新田 幸弘氏



株式会社  
ファーストリテイリング  
CSR部  
上田 愛子氏

## ABeamの中心メンバー



アビーム  
コンサルティング上海  
プリンシパル/執行役員  
梶浦 英亮



社会基盤・サービス統括  
事業部  
エネルギー担当  
シニアマネージャー  
山本 英夫



社会基盤・サービス統括  
事業部  
シニアコンサルタント  
鹿毛 麻里恵



グローバルデベロップ  
メントセンター（上海）  
オフショアスタッフ  
Wang Yi

イメージをグローバルに定着させたファーストリテイリング。アパレルの業態としては製造から販売まで一貫して行うSPA（製造小売）が特徴である。

比較的環境への負荷が低いとみられるアパレル業界だが、ファーストリテイリングでもグローバルな事業展開や会社規模の拡大に伴い、企業が環境に対してどのような姿勢で、具体的に何に取り組んでいるのかについて、関心が高まっているのを感じるという。グループ執行役員CSR部の新田幸弘氏は「社会からの関心・要請に対して、具体的なデータの開示も含めて積極的に応えていかなければ、グローバル企業として社会から受け入れていただくことはできません」と、カーボンリスクへの対応の必要性を語る。「広く環境という枠組みでとらえた場合、エネルギーや水の使用量、またCO<sub>2</sub>の排出量の削減といった課題について、当社だけではなくサプライチェーンも含めた取り組みが重要になってきます。そこで、このプロジェクトを開始しました」。

### 事前調査・分析で カーボンリスクを想定

ファーストリテイリングでは、「生産パートナー向けのコードオブコンダクト」「素材工場向けの環境基準」というものを制定している。その中には、排水・廃棄物管理、化学物質の管理といった環境保護についての項目も網羅され、素材工場、縫製工場のモニタリングが行われている。モニタリングは各国の環境規制に即しているが、ファーストリテイリングが必要と判断した場合は、法規制以上のことも改善を要請している。

今回行ったのは、それらにエネルギーも加えた見える化である。新田氏は「SPAのプロセスにおいて、生産工程が最も環境負荷が

高いといわれています。ここをまず見える化しなければ、本当に環境問題に取り組んでいることにならないのでは、という思いは以前からありました」という。

プロジェクト開始にあたっては、事前にABeamによるカーボン戦略策定が行われていた。つまり、今後、どのようなカーボンリスクが発生するのか、事前調査・分析をしたのだ。

そこでリスクとして重要視されたのが、まず社会的リスクである。今では環境の取り組みを評価する第三者機関がいくつかあり、業界ごとにランキングを発表している。その上位にいないければ、投資家などから受ける評価の悪化による企業価値低下が懸念される。「もちろん、ランキングを上げるために取り組むのではなく、結果的に上がっていけばいいと思っています」と新田氏。

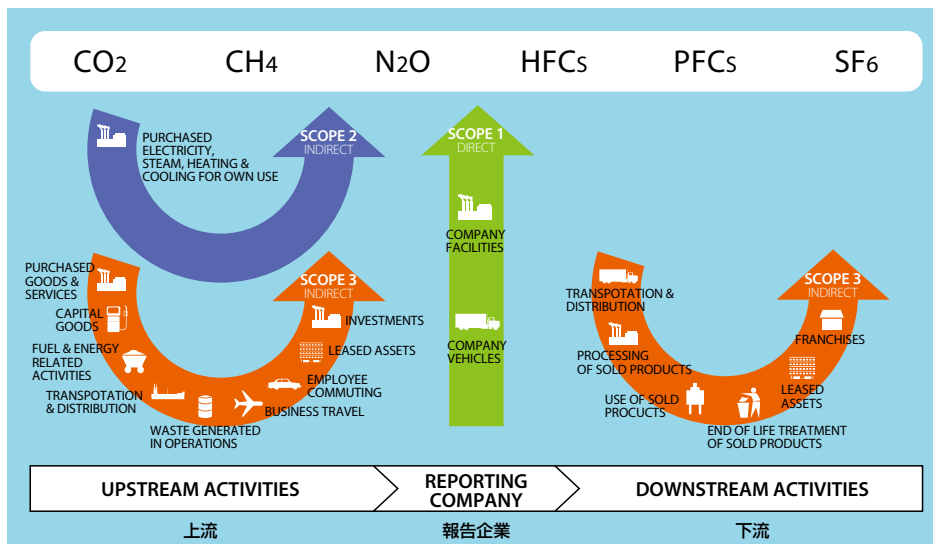
次に、コンプライアンスリスク。規制強化が進む中国では、規制に対応しなければ、操業停止などの罰則もある。新田氏は「エネルギーの見える化に取り組むことは、エネルギーの効率化を追求することでもあります。それは、製造コストにも関わることで、よりコストパフォーマンスの高い商品をお客さまに提供することにもつながっていきます」と広い視点でとらえる。

### ABeamの中国オフショア拠点を活用 オンラインツールでデータは一元管理

これらのカーボンリスクに対応するため、今回のプロジェクトは、中国など海外の生産委託工場におけるエネルギーデータの収集、およびスコープ3に準拠したCO<sub>2</sub>排出量算定業務を行うことを目的とした。

そして、今回パートナーに選ばれたのがABeamだ。新田氏は「海外の委託工場が対象なので、言語の違いをはじめ、使用されてい

### GHGプロトコルにおける活動境界区分



#### スコープ1 (直接排出)

- 報告事業者によって所有または管理している事業からの排出  
(例：ボイラー、炉、車両、その他燃焼からの排出)

#### スコープ2 (間接排出)

- 購入または取得され、報告事業者が消費した、電力、蒸気、冷水、温水等の発生に伴う排出  
(例：購入された電力、蒸気、冷水など)

#### スコープ3 (その他間接排出)

- スコープ1、2以外のサプライチェーン全体での排出量  
(例：購入原材料の抽出・生産、輸送、販売製品使用、廃棄等)

るエネルギー項目や単位などの細かい点や、係数の設定等、当社のみで確認するには限界がありました。海外のエネルギー事情を熟知している専門家にアウトソースすることによる安心感是非常に大きかったです」とABeamに信頼を寄せます。

実際のデータ収集の要となったのがABeamの上海オフィス拠点（GDC）である。ABeam中国プリンシパル/執行役員の梶浦英亮は、「GDCは、日本語・英語・中国語での対応が可能です。アジアを中心に北米や欧州でもサービスを提供しており、海外事情はタイムリーに情報が入ってきます。グローバルでのノウハウもあります。今回は中国が中心なので、ここを拠点に東京本社と連携して作業をすることにしました。中国と日本ではビジネススタイルが違い、その点にも配慮する必要があります」とプロジェクト体制について語る。

今回、対象とした工場は、中国、ベトナム、バングラデシュのユニクロ商品を生産する縫製工場、約100拠点である。収集対象データは電力、ガス・重油・蒸気等の委託工場における全エネルギーデータ、および上水データなど各工場で最大11項目に及ぶ。データは一元管理するため、ASP形式のオンラインツールを活用した。工場の担当者は、このオンラインツールに直接データを入力していく。これは、現地の工場のほとんどにとって初めての作業だ。

東京本社でデータ収集に当たったABeam社会基盤・サービス統括事業部シニアコンサルタントの鹿毛麻里恵は「はじめは、ログインできない、データが入力できないといったこともありました。しかし、根気強くこまめに電話、メールで対応して、データ収集できました」という。

ファーストリテイリングCSR部の上田愛子氏は「この作業は、工場にとって慣れない作業です。強制的にやってもらうわけにもいきません。エネルギー効率化のための共同作業なのだと、いかに認識して行ってもらうかが大事でした。ABeam GDCのスタッフにもこまめにフォローをしてもらったおかげで、今ではスムーズに収集できています」と語る。

データの収集は3カ月に1回。第1回目には、電力等の請求書を

すべて取り寄せ、入力データと付き合わせて精査した。収集されたデータ・分析は工場にもフィードバックされる。意識の高い工場では、そのデータが今後のエネルギー効率化を考える上で有効なデータになると喜ばれ、データ入力にも協力的だ。また、そうした環境に配慮した工場では人材採用にも効果があるという。

## さらなるエネルギーの見える化を実現し 環境対策のベストプラクティスにしたい

収集されたデータはオンラインツール内で、自動集約、算定され、レポートの月次報告が提出される。GHGプロトコルにも対応している。今後、これを継続していけば、期ごとの比較ができるようになり、最適エネルギー調達の検討も可能になる。それも、排出量取引制度や再生可能エネルギーの動向も鑑みた上で、である。

「今回のプロジェクトで、エネルギーの見える化は大きく前進しました」と新田氏。「ただ、今回対象としたのは縫製工場のみで、生地などの素材生産工場は含まれていません。工場の規模等を考えると、素材生産工場は縫製工場と比較してさらに環境負荷が高いと考えられます。だから今後は素材生産工場も対象に含めることを考えていきたい。そしてサプライチェーン全体でどのように削減施策を進めていくかが重要です。さらには物流、販売、廃棄と連携し、統合できれば、カーボンフットプリントにもつながっていきます」。

最近では、他にもCDP（カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）も必要な情報開示と認識されるようになってきている。これは、機関投資家が、企業に対して「気候変動によるリスクや機会にどう対応しているか」を問う質問状を送り、回答を求めるといったものだ。新田氏は、CDPへの参加も検討しているという。

「われわれのミッションのひとつは、『独自の企業活動を通じて人々の暮らしの充実に貢献し、社会との調和ある発展を目指す』ことです。この一連の環境対応がベストプラクティスとして業界や社会に開示できるようにしていきたい」と、新田氏は環境対応への社会的意義を熱く語った。

### ●VOICE (ABeamへの評価)

「今回のプロジェクトでもABeamさんは専門性、客観性、に長けていましたが、ABeamさんに期待するのはこれからです。今後は、店舗や工場と、現地のエネルギー事情を踏まえた適切な削減の取り組みが必要になってきます。その際にもパートナーとしてABeamさんにアドバイスをいただきたい。また、カーボンリスクの世界事情や事例も紹介してほしい」  
(ファーストリテイリング 新田氏)

「入力されたデータ内容の工場への確認や、信頼性を高めるためのデータ精査などには大変苦勞していただいて、感謝しています。工場のスタッフともうまくコミュニケーションをとっていただいたのが、スムーズに行った要因です」  
(ファーストリテイリング 上田氏)

### ●ユーザーカルテ

#### 会社概要

会社名	株式会社 ファーストリテイリング
所在地	(本社) 〒754-0894 山口県山口市佐山 717-1 (東京本部) 〒107-6231 東京都港区赤坂 9丁目7番1号 ミッドタウン・タワー
設立	1963年5月
事業内容	アパレル商品企画・販売
資本金	102億7395万円
売上高	820,349百万円(2011年8月期、連結)
社員数	14,612名(2011年8月末現在、グループ)

#### プロジェクト概要

概要	エネルギー／ カーボンリスク対策支援サービス
期間	2010年10月～継続中